

能登山岳信仰の霊場「石動山山麓及び不動滝」と 皇子が眠る「親王塚古墳」へ！

【行程】

小坂公民館⇒⇒⇒石動山(資料館・大宮坊・伊須流岐比古神社など)⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒
⇒⇒⇒⇒⇒<昼食・道の駅織姫の里なかのと>⇒⇒⇒⇒⇒⇒⇒不動滝(希望者のみ水行体験)⇒
⇒⇒⇒⇒⇒小田中親王塚古墳(第10代崇神天皇の皇子大入杵命墓)・亀塚古墳⇒⇒⇒⇒小坂公民館(16時30分頃着)

紀元前14,400年頃	紀元前350年頃	250年頃	大和政権成立	592年
旧石器	縄文 (約14,000年)	弥生 (約600年)	古墳 ①② (320年) ③ ④	
推古天皇即位 710年	平城京へ遷都 794年	平安京へ遷都 1185年		
飛鳥 (118年)	奈良 ⑤ ⑥⑦ (84年)	平安 ⑧⑨ (390年)		

===能登の山岳信仰の霊場===

～「神々の御坐す石動山」～ おわ

中能登町の東方に連なる標高564mの石動山。その山系の谷間からは、しばしば霧が立ち込め、あたかも神々が宿るかのような幻想的な風景を見せる。

石動山の名は、天より「動字石」が落下して、全山が震動したことに由来するという。古より沖を行き交う船人たちは、航海神或いは漁労神として崇め、山系から流れ出る河川が能登最大の穀倉地帯である邑知平野を潤すことから、里人からは農耕神として信仰を集めた。

6世紀中頃、日本に仏教が伝来し、奈良時代以降、神が宿る全国の山々は、仏と融合しながら神仏習合の形態で発展した。平安時代より伊須流岐比古神社の存在が確認できる石動山も、鎌倉時代には寺院が建立され、大宮坊を中心に360余りの坊舎と宗徒(僧侶)3,000人を擁していた。

寺院群は総じて石動寺(後の石動山天平寺)と呼ばれた。山内には五社権現が成立し、神仏習合の世界をつくりだしていった。

- ①4世紀中頃～5世紀初 雨の宮古墳築造
- ②4世紀後半～末期 小田中親王塚古墳築造
- ③520年 継体天皇が越国の総鎮守として賀茂別雷神を御所村へ遷座
- ④570年 道君が高句麗からの使者に大王(おおきみ)と偽り貢ぎ物を横領
- ⑤718年 越前国から分立し能登国立国
- ⑥746年 大伴家持が越中国司に任命
- ⑦748年 大伴家持が能登半島を巡回
- ⑧823年 越前国から分立し加賀国立国
- ⑨849年 農民の心得が具体的に「加賀郡勝示札」で発令



大宮坊・御成門

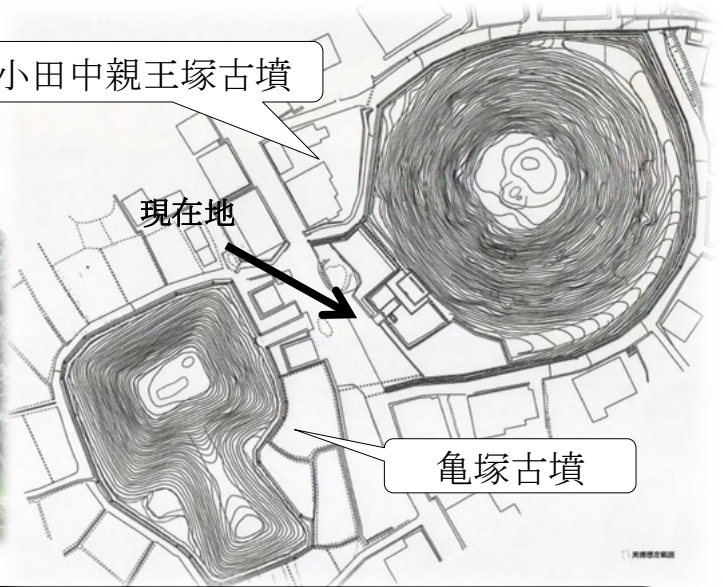
不動滝

泰澄大師が開いたと伝えられている落差約20mの滝で、本来は「熊野滝」という名前でした。しかし、滝つぼ横に不動尊が安置されていることから「不動滝」と呼ばれるようになりました。眼の病気、頭痛に霊験があるともされ多くの方が集います。夏場は涼感たっぷりの避暑スポットとして人気です。





小田中親王塚古墳



現在地

亀塚古墳

=== 小田中親王塚古墳 ===

古墳時代前期にヤマト政権と手を結び、邑知潟地溝帯東縁を支配していた首長の墓で、明治時代初期に第10代崇神天皇の皇子大入杵命(おおいりきのみこと)の墳墓として陵墓された。【宮内庁管轄】

- ①築造年代⇒4世紀後半～末期
- ②埋葬者⇒大入杵命墓(第10代崇神天皇の皇子)
- ③墳形⇒円墳(帆立貝形との説もある。)
- ④墳丘・石室⇒三段築盛で竪穴式石室(幅1.5m、長さ3.0m)
- ⑤墳丘の直径・高さ⇒直径65m(空濠含90m)、高さ14m
- ⑥出土品⇒三角縁波紋帯三神三獸鏡(直径 21.2cm～21.4cm) 重さ827g
管玉1点、鋏形石破片1点



『平家物語』巻7に「木曾義仲殿は、志保の山打ちこえて、能登の小田中、新王の塚の前にぞ陣をとる」とあり、古くから知られた古墳になる。

=== 亀塚古墳 ===

実際の被葬者は明らかでないが、宮内庁により「大入杵命墓」の陪冢(注)に治定されている。

- ①築造年代⇒4世紀後半
- ②墳形⇒前方後方墳
- ③墳長⇒62m(後方部36.6m、前方部25.4m) 墳丘の高さ⇒8.4m
- ④出土品⇒伝承なし

(注)陪冢とは、大型の古墳と同一の時代に、その周囲に計画的に付随するように築造されたものを指し、中心となる大型の古墳に埋葬された首長の親族、臣下を埋葬するもののほか、大型の古墳の埋葬者のための副葬品を埋納するために築造されたものもあると考えられている。